

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 5 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2013～2016

課題番号：25285038

研究課題名（和文）ヨーロッパ保守政治の構造変容：保守主義・キリスト教民主主義・新右翼

研究課題名（英文）Changing Conservative Politics in Europe

研究代表者

水島 治郎（Mizushima, Jiro）

千葉大学・法政経学部・教授

研究者番号：30309413

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ヨーロッパの戦後政治を中核的に担ってきた保守政党を主たる対象とし、その展開と変容、近年における右派ポピュリズム政党との対抗について、比較の観点を用いながら検討したものである。共同研究の成果として、平成28年7月には、水島編『保守の政治学 - 欧州・日本の保守政治とポピュリズム』（岩波書店）と題する論文集の刊行を実現した。日本・イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スイス・オランダが扱われている。次に、28年12月には水島により単著『ポピュリズムとは何か』（中公新書）が刊行され、ポピュリズム政党の各国の展開が検討された。本研究により、重要な学術成果を社会に送ることができたといえよう。

研究成果の概要（英文）：The focus of our research is changing conservative politics in Europe. In Western Europe after the War, the most influential political groups were conservative parties, but these parties were seldom the target of comparative political research. In the last year of our research program, we published a book on comparative European conservative parties, which is the first attempt in Japan. In this way, we were able to set up a new framework to see the European politics and history.

研究分野：政治学

キーワード：保守政治 保守主義 キリスト教民主主義 ポピュリズム 新右翼 反EU

1. 研究開始当初の背景

(1) ヨーロッパの保守政党は、英・独・仏・伊・ベネルクス諸国をはじめ多数の国で戦後最大の政治勢力として政権を長期に担当しており、現在も保守政権の国が過半を占める。しかしこれら保守政党をめぐっては、英国保守党やドイツ CDU などに関する個別研究はあるものの、ヨーロッパレベルの視点から比較政治的に分析したものは少なく、社会民主主義政党が頻繁に比較を交えて研究されたことと対照的だった。

(2) 特に日本ではこの状況は顕著であり、左派政党（およびファシズム政党）の研究が多数蓄積される一方、とりわけ大陸ヨーロッパのキリスト教民主主義政党については、1990年代に入るまで、西川知一の先駆的業績『近代政治史とカトリシズム』（1977年）を除けば研究は皆無に近かった。

(3) 他方、ヨーロッパの保守政治の空間は、近年構造的な変容を蒙っている。2000年前後より各国で既成政党を批判する新右翼ポピュリスト政党が選挙で躍進し、いくつかの国では政権に参加・協力して政策に強い影響を及ぼしているが、既存の保守政党もこの批判の対象とされ、支持が侵食されている。特に大陸諸国のキリスト教民主主義政党には、オランダ・ベルギーを典型として新右翼政党の伸張と並行して凋落する例が多く、保守の政治空間に大きな変化が生じている。しかしこの変化をヨーロッパレベルで比較分析した研究はほとんどない。

2. 研究の目的

(1) 以上の学術的・社会的な背景を踏まえ、本研究の目的は、戦後ヨーロッパ政治の最も有力な政治潮流であり、現在も過半の国で政権を掌握している保守系政党を対象として、比較政治的にその構造的な変容の実態を明らかにすることである。1990

年代以降のヨーロッパでは、各国で新右翼政党が躍進する一方、既存の保守政党はその基盤が弱体化し、保守勢力全体の再編が進んでいる。また移民問題やグローバル化・ヨーロッパ化などの新たな争点は、「保守」とは何かをめぐる政治理念の再定義を促している。

(2) そこで本研究では、ヨーロッパ各国の保守勢力、具体的には保守主義・キリスト教民主主義・新右翼の3勢力を対照させつつ、そのイデオロギー的变化、政党間対抗関係の変容、党構造の再構築などを検討し、変動著しい現代ヨーロッパ政治を理解する重要な手掛かりを提供することをめざしたものである。

3. 研究の方法

(1) 本研究においては、具体的に以下のことを明らかにすることに努めた。まず近年のヨーロッパの保守政党が、国内外の変化を受けて、共通する二波の危機にさらされてきたことを示す。第一の波は、冷戦の終結である。かつて冷戦下で「反共」を旗印として諸保守勢力を糾合していたヨーロッパの保守政党は、冷戦の終結後、反共という重要な結集軸を喪失することによって動揺した。特にイタリアでは、万年与党だったキリスト教民主党が、汚職問題を端とする既成政党批判に曝されたことと相まって、党自体が崩壊する。第二の波は、90年代後半以降における新右翼政党の躍進であり、オランダ・ベルギーなどで支持基盤を侵食されたキリスト教民主主義政党が選挙で大敗して下野するなど、既成保守政党の「危機」が指摘されている。近年伸長著しい新右翼政党は、メディア戦略を駆使しながら、かつての「極右」と異なり、民主主義や議会主義を肯定し、自由や人権といった「西洋的」価値を支持しつつ、返す刀で「自由や民主主義を認めない」イスラム移民を排撃するといった論法をとることでリベラルな層にも支持を広げており、従来の「保守」

とは一線を画している。こうした既成保守と新興保守の対抗・協力関係は国によってさまざまなパターンがあり、本研究では比較分析によってそれぞれの特徴を抽出し、その類型化を行う。

(3) 特に 2000 年代以降は、保守政党内での党改革も進展し、東ドイツ出身の女性という「アウトサイダー」を擁して政権復帰したドイツのキリスト教民主同盟や、「リベラル保守主義」を掲げて支持を得、政権を奪還したイギリスのキャメロン下の保守党のように、党内の一定の「革新」を経て保守勢力の再結集を果たして政権を獲得し、新右翼政党による挑戦も現在まで退けている例もある。いわば保守の「革新」が各国で展開されるなかで、現代ヨーロッパ政治は新たな段階に入っており、従来の左右軸とは大きく異なる政治的対立軸の浮上が明らかになることを提示した。

4. 研究成果

最終的には、研究開始時点で期待していた成果を十二分に上げることができたと考えている。成果は多様であるが、以下では単行本として刊行された二点について説明する。

(1) まず共同研究の成果として、平成 28 年 7 月には、水島治郎編『保守の政治学 - 欧州・日本の保守政治とポピュリズム』（岩波書店）と題する論文集の刊行を実現した。日本・イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スイス・オランダが扱われている。

同書では、ヨーロッパ諸国における保守政党について、冷戦終結後の危機と改革の試み、ポピュリズムとの対抗関係などを軸に比較分析を行った。

研究を通じて明らかになった特に興味深い点として、ヨーロッパの保守政党のイデオロギー的差異がある。とりわけ大陸で優位だったキリスト教民主主義と、イギリスでいまも与党を担う保守党の依拠する保守主義と

の違いである。キリスト教政治社会観に基礎を置くキリスト教民主主義と異なり、イギリスの保守主義は「一つの国民」を軸としつつ柔軟に時代の変化に応じて改革を認める「適合の政治」であって、保守党が「当然の与党」として戦後イギリス政治の主役を占めることができた背景には、その保守主義の柔軟さが存在した。また本研究の最終年度には、イギリスの国民投票による EU 離脱決定という衝撃的な出来事も発生したが、大陸ヨーロッパのキリスト教民主主義政党が積極的に推進してきたヨーロッパ統合に対し、イギリスの保守党で根強く違和感が存在してきたことも、EU をめぐる大陸ヨーロッパ諸国とイギリスの温度差の背景にあることが指摘でき、その意味でも「二つの保守政治」の相違がヨーロッパ統合の将来に大きな影を投げかけることになったといえよう。

また同書で特筆すべきこととして、日本政治の研究者である中北浩爾氏の参画を仰ぎ、日本の自民党政治についても一章を設けることが挙げられる。

(2) 次に、平成 28 年 12 月には水島治郎により単著『ポピュリズムとは何か』（中公新書）が刊行され、ポピュリズム政党の各国の展開が検討された。同書は民主主義とポピュリズムを対立的に捉える捉え方ではなく、ポピュリズムとは民主主義に内在する「内なる敵」であるという視点から、各国の保守政治・右派政治の展開を論じたものである。ポピュリズムには、政治から排除されてきた人々の政治参加を促し、特権的なエリート層に対抗する人民の力という側面があり、それ自体は民主主義のあるべき姿と矛盾しない。その一方で、ポピュリズムには「人民」の意思を重視するあまり、権力分立や政党、議会、司法機関といった、よき統治を実現するために必要な制度を無視し、権力濫用につながる危険性も強くある。

このポピュリズムがラテンアメリカでは

主に左派の形をとるのに対し、先進国では保守・右派勢力の急進派となる点については、これまで学界でも検討の対象とされてこなかった。本書では、社会経済格差が圧倒的に大きいラテンアメリカでは、ポピュリズムが社会改革や分配を求める「解放」志向の左派になりやすいのに対し、福祉国家が発達し再分配が実施されてきたヨーロッパにおいては、福祉受給者となりやすい移民・難民を排除する「抑圧」志向の右派ポピュリズムになりやすいことを提示した。その結果ポピュリズムは西欧においては、既成の保守政党の強力な競合相手として立ち現れることになるのである。

(3) なお本研究に関連して、2016年7月には、オランダのポピュリズム研究者として国際的に知られた Koen Vossen 氏を東京に招聘し、セミナーと研究会を開催した。

(4) 以上のように本研究は、時代の要請にも応える、重要な学術成果を社会に送ることができたといえよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 21 件)

津田由美子、ベルギーにおけるポピュリズムと地域主義政党、関西大学法学論集、査読無、66、2017、373-394

作内由子、オランダ・カトリックの政党観、獨協法学、査読無、100、2016、200-222

〔学会発表〕(計 9 件)

Takeshi, Ito, Exploring the Liberal Origin of European Integration, The 20th International Conference of Europeanists, Amsterdam (the Netherlands)

〔図書〕(計 4 件)

水島治郎編、岩波書店、保守の比較政治学、2016、264

水島治郎、中央公論新社、ポピュリズムとは何か、2016、256

伊藤武、岩波書店、イタリア現代史、2016、320

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水島 治郎 (MIZUSHIMA, Jiro)
千葉大学・法政経学部・教授
研究者番号：30309413

(2) 研究分担者

野田 昌吾 (NODA, Shogo)
大阪市立大学・法学研究科・教授
研究者番号：50275236

田口 晃 (TAGUCHI, Akira)
北海学園大学・開発研究所・特別研究員
研究者番号：30113583

作内 由子 (SAKUUCHI, Yuko)
獨協大学・法学部・専任講師
研究者番号：60631413

今井 貴子 (IMAI, Takako)
成蹊大学・法学部・教授
研究者番号：60552859

古賀 光生 (KOGA, Mitsuo)
中央大学・法学部・准教授
研究者番号：50645752

中山 洋平 (NAKAYAMA, Yohei)
東京大学・大学院法学政治学研究科・教授
研究者番号：90242065

伊藤 武 (ITO, Takeshi)
専修大学・法学部・教授
研究者番号：70302784

津田 由美子 (TSUDA Yumiko)
関西大学・法学部・教授
研究者番号：30247184

(4) 研究協力者

土倉 莞爾 (TOKURA, Kanji)